

2024年1月31日開催のバッテリーウェビナーの背景

電池は、脱炭素社会、そしてモビリティ分野におけるゼロ・エミッション実現の要であり、E モビリティ市場の成長拡大を受けて、2030年には電池の需要が10倍にも跳ね上がると予測されています。EUは、新たな電池規則により、電池を取り巻く循環型経済を生み出しEU域内市場の改善を図るとともに、安全性、サステナビリティ、製品表示要件の導入などを通じて、より公平な競争を実現することを目指しています。

2024年2月18日には、EUの電池・廃電池に関わる新規則の多くの部分の適用が始まります。同規則は2020年に欧州委員会が提案、その後EU機関内での審議を経て、2023年に欧州議会・欧州理事会により最終的な規則が採択され成立に至りました。

EU電池規則は、あらゆる種類の電池に関わるサステナビリティ、安全性、製品表示、マーケティングや情報に関わる包括的なルールとなっており、デザインから製造、リユース、リサイクル、そしてEnd-of-Lifeまで、全ライフサイクルが対象となり、それらが安全で持続可能で競争力を有することを目指しています。循環型経済の確立に向けて、新規則では、製造者によるポータブル電池の回収率、廃電池からのリチウムのリカバリーレベル、リサイクル材の含有基準、リサイクル効率化などに関わる目標値を設定し段階的に上げていきます。2026年～2027年までには、電子版「バッテリーパスポート」などの製品表示に関わるさらなる要件も導入される予定です。

本ウェビナーでは、欧州委員会から講師をお招きし、EU電池規則の適用開始に向けた最新動向についてお話を伺うとともに、質疑応答の機会を通して参加者からのさまざまな質問に答えて頂きます。

以上